

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 25 日作成)

小委員会名	明視環境設計小委員会	主 査 名：原 直也 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (光環境運営委員会)	委員長名：加藤信介 主 査 名：岩田利枝
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	既存の明視環境計画手法の適用例・応用例として、ユニバーサルなサイン計画、防災時の避難誘導表示計画、防犯対策を兼ねた街路の光環境計画など、明視性が重視される環境に特化して、明視性を基礎とした具体的な設計法を提案し、その設計用資料を作成する。2006 年度よりそれぞれの課題について WG を発足させ、個々に活動を具体化していく。小委員会では引き続き、各委員の専門分野における明視環境設計の位置づけを明確化していくと共に、共通する資料や知見、または相違点の体系的な取り纏めを行う。	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有(設置当初) 原直也(関西大学), 奥田紫乃(同志社女子大学), 秋月有紀(京都大学非常勤研究員), 飯村治子(東京大学大学院工学系研究科), 井上容子(奈良女子大学), 岩田三千子(摂南大学), 佐藤隆二(大阪工業大学), 土井正(大阪市立大学), 樋村恭一(東京大学), 村上泰浩(崇城大学工学部), 山田常圭(消防研究所), 山家哲雄(日本大学)	
設置 WG (WG 名: 目的)	<b>明視環境設計資料 WG:</b> 各委員の持つ明視環境設計資料に資するデータの相互の位置づけと整合性を確認する。現有データを用いた標準的な明視環境設計資料の構成を提案する。さらには、標準的な設計資料の整備を推進する。 <b>防災照明 WG:</b> 既存の明視環境計画手法の適用例・応用例として、ユニバーサルなサイン計画、防災時の避難誘導表示計画、防犯対策を兼ねた街路の光環境計画など、明視性が重視される環境に特化して、明視性を基礎とした具体的な設計法を提案し、その設計用資料を作成する。	
2006 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	0 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	明視環境設計資料 WG と防災照明 WG を設置して活動を開始した。残念ながら委員会が開催出来ていない。
委員会活動の問題点・課題	

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

## 2006 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>2005 年度の小委員会での議論、活動に基づいて、2006 年度から具体的な活動の主体を SWG に移行している。そのためか小委員会としての活動がおろそかになっている。早急に立て直すべく活動を活発化させていきたい。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。